

「高め合い 認め合い 楽しく学び合う 小鹿野小学校」

学校だより



学校教育目標 ○仲良く力を合わせる子 ○明るく元気な子 ○進んで学習する子
小鹿野町立小鹿野小学校 1号 令和2年4月8日発行

「子どもは、大人の後ろ姿から学ぶ」

校長 坂本 勉

日増しに暖かくなり、春本番といった季節になりました。新型コロナウイルス感染が拡大する中ですが予定通りに1学期が始められたことに安堵しています。本日、入学式を挙行し41名の新入生が小鹿野小学校の門をくぐりました。きらきらと輝く瞳を見て、この子どもたちの笑顔のために頑張らねばと気持ちを引き締めたところです。1年生だけではなく、他の学年の子どもたちも、新たな1年の始まりとなります。期待と不安が混ざっていることかと思いますが、安心して笑顔で学校生活を送ることができるよう教職員一同力を合わせて取り組んでいきたいと思っています。



さて、私が本校に赴任し半年となります。昨年度、たった一つだけですがやりきったことがあります。それは、毎朝のあいさつです。30分程度の時間ですが、できる限り子どもたちの顔を見て、一人一人に対して「おはようございます」とあいさつし続けました。おそらく、子どもたちも最初は恥ずかしさもあったと思いますが、だんだんあいさつを返してくれる子どもが増え、3学期にもなると、私より先に大きな声であいさつしてくれる子どもたちも多くなってきました。全員ではありませんが、確実に多くの子どもたちがあいさつしてくれるようになりました。ぜひ、今年度も続けていこうと思っています。私は、このあいさつを通して気づいたことがあります。上からでもなく、下からでもなく、心からあいさつする姿を見せることで、その姿から学んでくれているということです。確かにあいさつしない子どもに、「あいさつしなさい」という指導が必要なときもあるでしょう。しかし、私は、一度もこの朝のあいさつの場面で、子どもたちに「あいさつしなさい」という指導はしませんでした。しかしながら、少しずつですがあいさつできる子どもが増えてきたのです。このように、あいさつだけではなく大人が手本を示す、大人が行動する姿から子どもが学ぶということはあると思います。「○○しなさい」という指導の方が早いかもしれませんが、しかし、まず大人が手本となる姿を見せることが大切なのではないかと、そんな気がします。子どもたちは、見ていないようで大人の行動をよく見ています。子どもは親の鏡という表現をされるのもその意味でしょう。我々教職員も含め、まず大人から行動で示すということを意識することができるような学校にしていきたいと思っています。時間がかかるかもしれませんが、長い目で見たとき、きっと子どもたちがよい方向に変わってくれるのではないのでしょうか。

それでは、保護者の皆さん、地域の皆さん、本年度もどうぞよろしくお願いいたします。